

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100675		
法人名	(有)在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホーム奄美	ユニット名	1F
所在地	静岡県沼津市本郷町38-6		
自己評価作成日	平成26年2月14日	評価結果市町村受理日	平成26年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvosvoCd=2271100675-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成26年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれ家庭的な環境の下、広い庭を活かし季節の野菜を育て、収穫する楽しみを感じて頂いています。毎月、四季を感じて頂ける外出や、行事を企画し、利用者様と一緒に料理を作り、一緒に楽しむ様に心掛けております。誕生日には、利用者様のご希望を伺い、馴染みの場所への訪問や、ご家族との外出を楽しんで頂いております。地域や近隣の皆様と助け合い暮らしていけるように積極的に活動しております。一人ひとりの個性と価値観を尊重しながら生活の中で、役割や出番を発揮できるように支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の中で最初に設立されたグループホームであり、ホームの歴史と共に地域との関わりも紡がれてきており、利用者が地域の中で自然な形で暮らしている。地域交流は、職員の心掛け抜きには成り立たず、良き隣人に恵まれたことと併せ、心と話を聞かせていただいた。経年により利用者の重度化が進み、介助の質量も変化してきているが、細やかな関わりと記録で職員間の情報が共有され利用者・家族の意向に沿った支援を実践し、家族からも信頼を得ている。利用者一人ひとりに対する職員の温かな視点は、ブログの発信や個々のお便りの文面からもうかがうことが出来る。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの後に、毎月の目標、事業所及びグループ理念、毎日の目標を唱和し、実施していけるよう努力している。	グループホームの理念「そっと寄り添い、共に生きる」に加え、具体的な月の目標を掲げ、企業理念も含め実践に繋げるよう毎日唱和している。月の目標は達成度を自己申告で確認し意識付けを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に積極的に参加や、納涼祭、市民文化祭、近隣商店街の利用など、地域交流を深めている。	奄美の歴史と共にある地域の方との交流を途切れさせないよう折々のお付き合いを大切にしている。結果有形無形多くのいただきものがあり、利用者の楽しみやホーム運営の一助となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際、現状の説明、質問及び相談に対応している。施設見学者の方には、施設内の暮らしぶりを見学して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し、活動報告、行事報告、日常の暮らしなど、スライド写真を用いて知って頂いている又、公開防災訓練は、同日に行い、意識向上に努めている。	地域包括支援センターや介護相談員・自治会長・家族・利用者・管理者を構成メンバーとして年間6回開かれている。防災訓練等行事を絡めて実施したり近所にも声を掛け、そこでの意見をサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の方が、月に一度来所される。又2か月に一度、GH連絡会議に出席し、他の事業所、沼津市長寿福祉課、包括支援センターの方々と意見交換、相談をさせて頂いております	市の協力によりグループホーム連絡協議会では参加事業所の抱える問題点について話し合い、支援に活かしている。市役所が近いので出向くことも多く利用者の生活について必要に応じ相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時、申し送り時等に、事例報告等で、注意を促している。全ての職員が認識している。	法人で行われる研修会に参加し管理者や職員共に身体拘束による弊害を理解し、拘束をしないケアを実践している。薬や言葉による拘束についても全体ミーティングで話し合い啓発している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロアミーティング、全体ミーティング、申し送り等、介護時の言葉かけ、支援方法などについて、取り入れ、全員把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用されている方がいらっしゃいます。職員を外部研修等に参加させ、学ぶ機会を今後も設けて行きたい。また、相談頂いた場合は、意向に添えるようにご協力させていただきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前は、訪問面接を行い、入居時には契約書面を読み合わせ、説明をさせて頂いております。分からない事がある時には、随時問い合わせにお答えし、理解して頂けるよう努めております。解約時にも説明を行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情報告及び意見箱の設置を行っている。月に一度、介護相談員の方が来所し、利用者様の声を聞く機会を作っている。	運営推進会議や折々の行事に家族の参加を促して直接利用者の顔色を見ていただいたり職員と話し合う機会として、コミュニケーションを図っている。家族アンケートからは要望に良く対応してもらっていることがうかがえた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を行っている。ミーティング記録に個人の意見が反映されるよう工夫している。	ミーティングで職員の意見を引き出し、検討している。法人本部から担当者が定期的に出向き職員個々の意見や要望を聞いて反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績、勤務状況など、毎月代表者が、把握できる状態にあり、正社員年2回、社員年1回、個人評価表をもとに、評価が行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、資格取得、初任者研修等、受講者への支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会議や会社内外の研修に参加、他施設との交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前アセスメントにより、サービスの方向性をスタッフ間で共有し、自己決定や自立支援を行う上での課題、コミュニケーションに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前、ご家族にご本人が何を望んでいるのか、どのような支援を行う事ができるのか、傾聴しホームでの生活に馴染んで頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話をよく伺い、ご家族の理解頂ける説明を心掛けています。他のサービスも含め、専門用語をさげ、分かりやすい説明を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	作品作りや調理、清掃など、自立支援を心掛け、出来る力を引き出し行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご協力を頂き、家族との団欒、墓参り、正月の帰宅、誕生日の外出など、付添いをお願いしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院受診の際の、馴染みの売店での購入や、バースデイには、生まれ育った場所を散策されたり、出来るよう支援しております。	利用者の同級生が訪問してくれたり、身内の見舞いに出かけたりと家族の了解を得ながらできるだけ利用者の大切な思い出が途切れることがないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配慮など、利用者様の個性を考慮しながら、利用者様同士の関係が良好になるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族様にも、行事などのお知らせを行い。いつでも立ち寄れる雰囲気作りを心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から汲み取り、ケアプラン作成時は、利用者様本位の考えのもとご本人と向き合い希望、意向を把握するように努めています。	職員は日常生活の中で話題に工夫したり、できるだけ声掛けをして希望や意向を聴きだす努力をしている。また変化や気づきなどは、申し送りノートで情報を共有している。利用者のこだわりも大切にして支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、センター方式シートのご記入をご家族様に依頼する他、面会の際、生活歴を伺い把握に努めます。日々の生活の中からスタッフの得た情報は記録され報告されます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に一日の記録がされている他、特別な事項は朝夕の申し送り及び、各階の申し送りノートを使用し全スタッフに周知される。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・家族のご希望を伺うと共に、必要時にはケアカンファレンスを行い検討します。スタッフ参加で、担当者より意見収集を行い、必要時には関係者の意見を反映致します。	本人や家族・医師の意見や利用者の生活状態から、一人ひとりの現状を把握し内容を話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。日頃の関わりの中で希望の汲み取りに努め取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入を行い特別な事項に関しては、ミーティングで検討し、計画見直しに行かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院への付添い、買い物同行等、必要・要望のあるものには、有料送迎として支援しております。その他、委託マッサージの依頼など支援を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練の実施、ボランティアの受け入れ、近所の商店への買い物、食事等の外出により交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、医療機関の確認をし、医療連携の説明をご本人、ご家族に行っている。医療連携として毎月2回の往診、急変時の対応、巡回看護師への連絡。又、歯科は2回の往診と、毎週のブラッシングの実施を行っている。	ほとんどの利用者は協力医を主治医として、各々2回内科・歯科の往診と訪問看護を受けている。適切な医療が受けられるよう家族と協力して支援している。受診状況も家族に報告されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に数回、巡回の看護師により健康チェックが行われ、緊急時には、協力医院、看護師と24時間体制で、連絡対応が可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に医師、看護師、ソーシャルワーカー等から情報収集し、状況の把握、メンタル面等に考慮し退院に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、終末期について事業所で、できる事出来ない事を含めてご家族にご説明をし、意向を書面に記入して頂き、状況の変化があった時煮には、再記入して頂くようにしております。	重度化した場合のあり方について、本人・家族に説明し、意向を把握し確認書を交わしている。その後も利用者や家族の気持ちの変化に配慮し、利用者個々の希望を共有して支援に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修、その他講習会に参加、急変時などの対応は、マニュアルの確認で行われている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の火災・地震発生時の防災訓練を行い、火災・地震・風水害マニュアルを完備しております。有事の際の、火災一斉メールでの会社全体への周知。地域の方には、運営推進会議、自治会の参加等で、協力を要請、地域防災訓練にも参加しております。	地域の訓練にも参加し、利用者職員共に防災対策への意識の向上を図っている。運営推進会議メンバーにも訓練を見学してもらい協力関係が得られるような働き掛けを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴・排泄の際の身体保護、声掛けに努めている。否定をせず傾聴し、ニーズを聞き出しています。	利用者一人ひとりの性格や職員との信頼関係によりその方に合った関わり方をしている。声掛けや対応にも人格を損ねることの無いよう、職員同志も確認し合い支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフと2人になれる環境を作り、会話の中からご本人の希望や思いを伺い、スタッフで思いを共有し、ご自分から自己決定できるように支援しております。パーステイ企画では、ご本人のご希望を伺い、外出支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるが、無理強いせず、居室でテレビをご覧になりたい方、休みたい方、一人ひとりのペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣準備は、ご希望に添って一緒に行います。馴染みの理美容を利用される方への各々への支援と共に、訪問理容を手配し利用して頂きます。髪型は自己決定を尊重し、それに添った支援に努めております。長髪希望の方には、髪結い支援		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきや米とぎ、食器の片づけを一緒にやっている。また、包丁を見守りで使って頂いたり、野菜を手でちぎって頂いたり、それぞれの出来る力を発揮して頂き、献立には利用者様のご希望を反映するよう努めています。	職員は利用者に話しかけながらゆっくり介助している。手伝いが出来る利用者が職員と共に片付けを行い、楽しみながら支援している。利用者の状態に合わせたソフト食や手作りの行事食も楽しみである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量の記録記入や、個々に応じた適量の食事や水分の提供、又食事量の制限のある方には、食器の工夫を行い、障害のある方には、キザミやとろみで食べやすい工夫をしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ADLに応じた口腔ケアを行い、夜間は義歯洗浄を行っております。1ヶ月に2度歯科往診をして頂き、必要な方は、毎週ブラッシングケアを実施。その都度、口腔ケアの指導を頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意のある方は、自立支援を心掛けております。排泄表を活用し、間隔パターンを把握しスムーズな誘導を心掛け失敗により自尊心を傷つけないよう配慮し、安易にオムツは使用せず、入院等で使用されていた方でもリハビリパンツ・パットのみと回復して頂くよう努めております。	排泄表に記入し利用者個々の状況を把握し、表情や行動に注意しながら時間を計らいさりげない誘導ができるようにしている。夜間に簡易トイレを使用して自信が持てる排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	尿意・便意のある方は、自立支援を心掛けております。排泄表を活用し、間隔パターンを把握しスムーズな誘導を心掛け失敗により自尊心を傷つけないよう配慮し、安易にオムツは使用せず、入院等で使用されていた方でもリハビリパンツ・パットのみと回復して頂くよう努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週2回の入浴と希望の方には、可能な限り提供できるように努めております。	利用者の生活習慣や日々の希望に合わせ、個々の思いや気持ちを大切に支援している。入浴を拒む利用者には、タイミングや言葉かけを工夫して入浴を勧め清潔を保つようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体調に合わせて入床して頂いております。温かい飲み物の提供や、湯たんぽの提供を行い、リラックスして入眠して頂けるように努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルには、処方箋掲示し、服薬チェック表を活用しております。薬の変更時には申し送りで伝えられ、申し送り帳に記載しております。また、社内研修の薬学講座等で、スタッフは知識向上に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時、ご家族との面談の際、又ご本人との会話より、出来る力を探り出し、引き出すように努めております。職員が得た情報は介護記録に記し、ミーティングで報告、ケアプランに活かしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日は、戸外に出るよう心掛けており、買い物や散歩の要望には、出来る限り実施するように努めております。パースディ企画では、ご本人の希望を伺い外出を含め実現している。	散歩や本人の希望する買い物・誕生日の職員との外食、季節ごとの花見やドライブ・初詣に出掛けている。自由に出掛けられない利用者にも庭での日光浴や安全に配慮し車での外出を支援している。	これまで通り外に出掛けられるように、利用者の希望を取り入れた外出支援が行われる事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人のご要望により、ご家族様と相談しながら、買い物など楽しまれています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の気持ちを尊重し、電話の取次ぎや手紙の投函などお手伝いさせて頂いております。また季節のお便り等も行い、携帯電話を所持されている方もいらっしゃる、自由に電話を掛けていらっしゃる方もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の改善に可能な限り努めています。年間行事に合わせ四季を感じて頂くように施設内での果物や野菜の収穫、施設周辺でも花作りをしています。	玄関にはお雛さまが飾られ、庭が見渡せる居間・食堂からは、開花や収穫の楽しみも広がる。行事の写真や季節の風物を取り入れた壁面作りなど利用者と共にしている。生活感あるフロアでくつろぎ歓談している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂リビングにはソファがあり、自由に座りくつろがれたり、窓辺付近に椅子を持ち合い、日光浴をしながら集いの場となる事がある。1・2階自由な行き来もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人にとって大切な物や馴染みの物は、出来るだけ多くご家族にお願いして持ってきて頂いております。	馴染みの物や使い慣れたタンスやテレビなどが使い易く配置され、家族の写真を飾るなど、思い思いに工夫されている。入居後も家族と話し合い利用者が安心して過ごせる居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部にはなるべく障害物を置かないようにし、また居室内のベッドやタンスの位置など、ご本人と相談して動きやすいように工夫しております。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100675		
法人名	(有)在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホーム奄美	ユニット名	2F
所在地	静岡県沼津市本郷町38-6		
自己評価作成日	平成26年2月14日	評価結果市町村受理日	平成26年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2271100675-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成26年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれ家庭的な環境の下、広い庭を活かし季節の野菜を育て、収穫する楽しみを感じて頂いています。毎月、四季を感じて頂ける外出や、行事を企画し、利用者様と一緒に料理を作り、一緒に楽しむ様に心掛けております。誕生日には、利用者様のご希望を伺い、馴染みの場所への訪問や、ご家族との外出を楽しんで頂いております。地域や近隣の皆様と助け合い暮らしていけるように積極的に活動しております。一人ひとりの個性と価値観を尊重しながら生活の中で、役割や出番を発揮できるように支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※ 複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの後に、毎月の目標、事業所及びグループ理念、毎日の目標を唱和し、実施していけるよう努力している。	※ 複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月2回施設周辺の下水道清掃を実施したところ、自治会長さんの計らいで、下水道工事をして下さる。自治会会合、行事、地域清掃、防災訓練に参加。地域保育園、中学生の職業体験の受け入れを行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際、現状の説明、質問及び相談に対応している。施設見学者の方には、気軽に施設内の暮らしぶりを見学して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を開催し、活動報告、行事報告、日常の暮らしなど、スライド写真を用いて知って頂いている又、公開防災訓練は、同日に行い、意識向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の方が、月に一度来所される。又2か月に一度、GH連絡会議に出席し、他の事業所、沼津市長寿福祉課、包括支援センターの方々と意見交換、相談をさせて頂いております		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時、申し送り時等に、事例報告等で、注意を促し、全ての職員が認識している。玄関は構造上、自動ロックが掛かり、庭への出入りにもブザーが付いているが、希望に添えるように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加、言葉掛け、支援方法などについて、虐待とならぬようにミーティングなどで、話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用されている方がいらっしゃいます。職員を外部研修等に参加させ、学ぶ機会を今後も設けて行きたい。また、相談頂いた場合は、意向に添えるようにご協力させていただきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前は、訪問面接を行い、入居時には契約書面を読み合わせ、説明をさせて頂いております。分からない事がある時には、随時問い合わせにお答えし、理解して頂けるよう努めております。解約時にも説明を行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、また面会簿に意見記入欄を設けております。また介護相談員を通じて受けた利用者様の声やご家族の声を、運営に反映させるように努めております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談、または気軽に意見交換のできるミーティングを開催し、職員の意見提案を反映する機会を設け、記録に個々の意見が記入できるように工夫されている。またその内容によっては、管理者ミーティングに提案しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績、勤務状況など、毎月代表者が、把握できる状態にあり、正社員年2回、社員年1回、個人評価表をもとに、評価が行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、資格取得、初任者研修等、受講者へのシフト調整などを行っている。ミーティングにて時間を設けスタッフ皆で共有し実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会議や事例検討会に参加させて頂き、意見交換相談など気宇会を頂き、近隣事業所への見学、運営推進会議への参加も積極的に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前アセスメントにより、サービスの方向性をスタッフ間で共有し、自己決定や自立支援を行う上での課題、コミュニケーションに努め安心して頂けるような雰囲気作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前、ご家族にご本人が何を望んでいるのか、どのような支援を行う事ができるのか、傾聴しホームでの生活に馴染んで頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話をよく伺い、ご家族の理解頂ける説明を心掛けている。他のサービスも含め、専門用語をさげ、分かりやすい説明を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にもある様に、出来る力を引き出し、自立支援を心掛けている。調理、清掃等、その方の心身状況に応じて行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご協力を頂き、家族との団欒、墓参り、正月の帰宅、誕生日の外出など、付添いをお願いしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得たり、施設行事での外出時、バースディ企画等、馴染みの人や場所のドライブ、会食等を意図的に計画し、実施している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個性を考慮しながら、食堂、リビングの席への誘導、利用者様間関係が良好になるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族様にも、行事などのお知らせを行い。いつでも立ち寄れる雰囲気作りを心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から汲み取り、ケアプラン作成時は、利用者様本位の考えのもとご本人と向き合い希望、意向を把握するように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、センター方式シートのご記入をご家族様に依頼する他、面会の際、生活歴を伺い把握に努めます。日々の生活の中からスタッフの得た情報は記録され報告されます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に一日の記録がされている他、特別な事項は朝夕の申し送り及び、各階の申し送りノートを使用し全スタッフに周知される。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・家族のご希望を伺うと共に、必要時にはケアカンファレンスを行い検討します。スタッフ参加で、担当者より意見収集を行い、必要時には関係者の意見を反映致します。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の実施に努めています。支援の証し、利用者様の生きる証しと共に、スタッフ間の統一ケアにより、より良い支援を目指しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院への付添い、買い物同行等、必要・要望のあるものには、有料送迎として支援しております。その他、委託マッサージの依頼など支援を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練の実施、ボランティアの受け入れ、近所の商店への買い物、食事等の外出により交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、医療機関の確認をし、医療連携の説明をご本人、ご家族に行っている。医療連携として毎月2回の往診、急変時の対応、巡回看護師への連絡。又、歯科は2回の往診と、毎週のブラッシングの実施を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に数回、巡回の看護師により健康チェックが行われ、緊急時には、協力医院、看護師と24時間体制で、連絡対応が可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に医師、看護師、ソーシャルワーカー等から情報収集し、状況の把握、メンタル面等に考慮し退院に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、終末期について事業所で、できる事出来ない事を含めてご家族にご説明をし、意向を書面に記入して頂き、状況の変化があった時煮には、再記入して頂くようにしております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応や救急救命の講習を受けたり事故時の協力体制についてマニュアルを常に確認しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の火災・地震発生時の防災訓練を行い、火災・地震・風水害マニュアルを完備しております。有事の際の、火災一斉メールでの会社全体への周知。地域の方には、運営推進会議、自治会の参加等で、協力を要請、地域防災訓練にも参加しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への入室の際は、ノックを行い、記録時必要な時にはイニシャルを使用。入浴・排泄の際の身体保護、声掛けに努めている。否定をせず傾聴し、ニーズを聞き出しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフと2人になれる環境を作り、会話の中からご本人の希望や思いを伺い、ご自分から自己決定できるように支援しております。パースデイ企画では、ご希望を伺い、外出支援を行っています。利用者様からの話しかけには、その場で手を止め傾聴するよう心掛けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるが、無理強いせず、居室でテレビをご覧になりたい方、休みたい方、一人ひとりのペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣準備は、ご希望に添って一緒に行います。馴染みの理美容を利用される方への各々への支援と共に、訪問理容を手配し利用して頂きます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきや米とぎ、食器の片づけを一緒にやっている。また、包丁を見守りで使ってもらったり、野菜を手でちぎってもらったり、それぞれの出来る力を発揮して頂き、献立には利用者様のご希望を反映するよう努めています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量の記録記入や、個々に応じた適量の食事や水分の提供、又食事量の制限のある方には、食器の工夫を行い、障害のある方には、キザミやとろみで食べやすい工夫をしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ADLに応じた口腔ケアを行い、夜間は義歯洗浄を行っております。1ヶ月に2度歯科往診をして頂き、必要な方は、毎週ブラッシングケアを実施。その都度、口腔ケアの指導を頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意のある方は、自立支援を心掛けております。排泄表を活用し、間隔パターンを把握しスムーズな誘導を心掛け失敗により自尊心を傷つけないよう配慮し、安易にオムツは使用せず、入院等で使用されていた方でもリハビリパンツ・パットのみと回復して頂くよう努めております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	尿意・便意のある方は、自立支援を心掛けております。排泄表を活用し、間隔パターンを把握しスムーズな誘導を心掛け失敗により自尊心を傷つけないよう配慮し、安易にオムツは使用せず、入院等で使用されていた方でもリハビリパンツ・パットのみと回復して頂くよう努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人のご希望により、週3回の入浴が出来るように目指している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体調に合わせて入床して頂いております。温かい飲み物の提供や、湯たんぽの提供を行い、リラックスして入眠して頂けるように努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルには、処方箋提示し、服薬チェック表を活用しております。薬の変更時には申し送りで伝えられ、申し送り帳に記載しております。また、社内研修の薬学講座等で、スタッフは知識向上に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時、ご家族との面談の際、又ご本人との会話より、出来る力を探り出し、引き出すように努めております。職員が得た情報は介護記録に記し、ミーティングで報告、ケアプランに活かしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日は、戸外に出るよう心掛けており、買い物や散歩の要望には、出来る限り実施するよう努めております。パースデイ企画では、ご本人の希望を伺い外出を含め実現している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人のご要望により、ご家族様と相談しながら、買い物など楽しまれています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の気持ちを尊重し、電話の取次ぎや手紙の投函などお手伝いさせて頂いております。必要な物をご家族に、電話でお伝えする方もいらっしゃいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の改善に可能な限り努めています。年間行事に合わせ四季を感じて頂くように施設内での果物や野菜の収穫、施設周辺でも花作りをしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファがあり、自由に座りくつろがれたり、1・2階自由な行き来もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人にとって大切な物や馴染みの物は、出来るだけ多くご家族にお願いして持ってきて頂いております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部にはなるべく障害物を置かないようにし、また居室内のベッドやタンスの位置など、ご本人と相談して動きやすいように工夫しております。		